

愛知県環境審議会 会議録

1 日時

令和4年1月24日（月）午後1時30分～午後2時45分

2 場所

愛知県庁本庁舎6階 正庁

3 出席者

委員24名（うちオンライン参加15名）、説明のために出席した環境局職員13名

4 審議の概要

（1）開会

委員30名中24名が出席しており、定足数を満たしていることを確認

ア 事務局あいさつ

小野環境局技監

イ 傍聴人について

なし

ウ 会議録の署名について

青木会長が、会議録の署名人として長谷川委員及び山澤委員を指名した。

（2）議事

ア 審議事項

- 諮問事項「次期愛知県廃棄物処理計画の策定について」、渡部廃棄物部会長が部会報告について説明したところ、修正等の意見はなく、部会報告のとおり答申がなされた。

【質疑応答・要旨】

（大石委員）

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、具体的に何か対策を検討したか。

（渡部美由紀委員）

資料1-1の廃棄物処理計画の59ページに、前計画には記述されていない項目

として、「(5) 新型コロナウイルス感染症等への対応」を新規で追加した。エッセンシャルワーカーである廃棄物処理業者等が、業務中に感染することがないように、国から示されたマニュアルやガイドラインの周知徹底、処理作業の自動化、事務作業の電子化を加速することについて記載している。

また、感染性廃棄物の多量排出事業者の最新の実績報告書をもとに、経年比較を実施したところ、廃棄物の量が 2020 年度は前年度比で 3 % 増えているということだった。感染性廃棄物の処理については病院などの排出事業者に対して国からマニュアルが示されており、その周知を図るということを、計画の 52 ページにも記載している。

なお、愛知県産業資源循環協会などからは、感染性廃棄物が今後増えても処理能力は十分にあり問題はないと聞いている。

ただし、本計画の基準年度は 2019 年度であり、2019 年 12 月からコロナが広がり始めたため、コロナの影響が数値に現れない状況で本計画を作成している。計画期間は 5 年間だが、状況に応じて見直しを図っていく必要はあると考えている。

(渡邊幹男委員)

食品ロスを含め、この廃棄物の内容は愛知県全体のことだと認識しているが、市町村による違いはあるか。

愛知県全体の内容だけでなく、例えば平均値を示すことで市町村の努力目標になると考えられる。

(事務局)

食品廃棄物や他の廃棄物を含め、毎年度詳細に調査及び集計し、公表している。これによると、食品廃棄物については大都市圏の方が多い傾向が出ている。また、港がある市町村は魚介系の廃棄物が多いなど、市町村の特性により排出される廃棄物の実態はそれぞれ異なる。

(渡部美由紀委員)

計画の 70 ページから 72 ページにかけて、県内 6 市におけるごみの調査結果が示されている。例えば 72 ページの表 15 を見ると、それぞれの市でどういふごみが多いのか分かるが、排出量の平均値まで記載はされていない。ただ、各市町村が平均値と比べることは重要なことだと思う。

(鈴木邦尚委員)

豊山町では、平均値との比較を意識して行っている。恥ずかしい話で、豊山町は

県平均と比べてごみの量がかなり多いため、どのように削減していくかが重要な課題である。

個人的には、資源化率が低いことが課題と考える。資源ごみであっても、分別をしないために可燃ごみとして処理される量が多い。資源化を進めるためにどのように政策を組み合わせるかが非常に大事だと考えており、その方向で取り組んでいる。

(山下委員)

計画を立てることは重要だが、それを推進し、実現していくことが大事だと思う。食品廃棄物は、ごみゼロ社会推進あいち県民会議やその他の団体があり、その団体を通してこの計画を周知徹底して実現に移すということがイメージできた。産業廃棄物はどのようにこの計画を周知して実現していくか、具体的に教えてほしい。

(事務局)

年度内にこの計画を策定した後、産業廃棄物については、愛知県産業資源循環協会に、一般廃棄物については市町村や県民にこの計画を周知する。

また、ごみゼロ社会推進あいち県民会議として毎年県民大会を開いており、その場でもこの計画を周知する予定である。

イ 報告事項

(ア)「愛知県における土砂等の埋立て等に関する規制のあり方について」、事務局から諮問の取り下げの報告があった。

【質疑応答・要旨】

なし

(イ)「愛知県環境基本計画の進捗状況について」、事務局から報告があった。

【質疑応答・要旨】

(渡邊幹男委員)

カーボンニュートラルについて、愛知県内で、例えば私が知っているのは岡崎市だが、推進本部のようなものを作り、実際に動き出している市町村は愛知県内にはどれくらいあり、それを県は把握しているのか。

(事務局)

各市町村ではそれぞれ地球温暖化の対策計画を策定しており、その中で岡崎市では地域新電力を作る取組も実施されている。こういった取組を他の市町村にも展開していくよう働きかけをしているところである。

県では、地球温暖化対策に係る計画の見直しを現在進めているところであり、策定後は各市町村とともに計画を推進していきたいと考えている。

(渡邊幹男委員)

資料3-1、「2 自然との共生」の「野生生物の絶滅回避」はマイナス思考の項目だが、研究が進むことにより、新しい種を発見した時点ですでに絶滅危惧種になるものもあると思う。様々な研究によって、絶滅しかけている種が新たに発見されたということを目標として数値で盛り込めると、生物多様性をマイナス面だけでなく、プラス面で評価できると思う。

(事務局)

第5次愛知県環境基本計画に掲げた各目標は、地球温暖化や生物多様性、廃棄物等の個別戦略の最新のデータに基づくものになっている。御指摘の点については、生物多様性戦略を所管する自然環境課と共有し、参考にしたい。その中で、必要に応じて戦略を見直すということになれば、基本計画の目標として反映することとなる。

また、先ほどの地球温暖化対策に係る市町村の取組について、これから脱炭素先行地域の募集が始まるが、市町村の状況を県で調査しているわけではない。脱炭素に取り組もうという思いを持っているところや、すでにゼロカーボン宣言をしている市町村もあるため、これらのカーボンニュートラルの取組を先進的に行っていたきながら、これを他の市町村にも波及させ、広げていければと考えている。今後地球温暖化防止戦略を改定する中でも、そういった取組が広がるようにしたい。

(谷川委員)

今回、渡部部会長をはじめ、大変多くの方の尽力で、この新しい計画が答申されたということで、御礼を申し上げたい。

私も廃棄物部会の委員として参加していて感じたことだが、今回答申された廃棄物処理計画は、廃棄物の適正処理、そしてリサイクルできるものを作るという点で前計画の改定版である。今回の答申概要の中にもあったように、今後は入口側にそ

の廃棄物をリサイクルして戻していき、循環型社会やサーキュラーエコノミーをつくるのが非常に大事になってくる。

愛知県環境審議会廃棄物部会は、50年くらい前に作られた廃棄物処理法をベースにしていて、県の組織も基本的に同様と考える。しかし、今後、循環型社会をつくるためには、廃棄物処理法の1つ上にある循環型社会形成推進基本法に基づき、リサイクルした資源を生産者や製造メーカーに流す計画をつくることができないかと思ひ、環境審議会における廃棄物部会の位置付けや、どの法律に基づいてどういった部会を立ち上げるのかということは、しっかり考える必要がある。青木会長をはじめ、事務局とともに考えていければ、今回の計画が円滑に進むのではと考えているので、ぜひお願いしたい。

(青木会長)

確かに、従来の廃棄物を少なくしようという考えで作られ出された枠組みから、我々の体制を転換する必要性が生じている。他の先進的な事例を探しながら、我々が取り得る体制を考えていきたいと思う。本日は御意見を承ったという形にしたい。

(山下委員)

資料3-1の「2 自然との共生」について、例えば「農地の保全活動面積」や以下の森林と漁場では毎年31,800haや200ha、5,200haと記載されているが、毎年これだけ増やすというわけではないと思う。毎年これだけは確保するというのであれば、保全活動面積が2025年度には減るという計画なのか。

また、目標数値が減るとはどういうことか。漁場だと中部国際空港の埋め立てが予定されていたり、森林だと宅地開発や太陽光発電の設置も想定されるため、少なくとも森林で200haは保全のための活動をするという数値だという理解でよいか。

(事務局)

これは活動量の目標である。例えば森林であれば森林面積をこれだけ増やすということではなく、森林を保全するための活動という事業量の目標である。

御指摘のとおり、確かに実績よりも増えていないが、目標としてはほぼ現状維持という考えである。

(事務局)

先ほどの谷川委員の御質問について、環境審議会は基本的に法律上意見を聞かなければならない重要審議事項を審議していただいている。一方で世の中が変わって

きており、新たな課題が生じたときは、すぐに専門家の先生方に諮りながら、取組の方向性等を検討していく場面もある。その際は、それぞれの課題に応じた専門家や民間企業に入っていただき、審議しているところである。

今後の方向性としては、いろいろやり方はあると思うので、いただいた御意見も参考にしながら、この審議会の構成のあり方等についても、検討していきたいと考えている。

以上

愛知県環境審議会委員 長谷川 明子

愛知県環境審議会委員 山澤 弘実